

# 私たちのカタチ

私たちのカタチ

## Recommendation

book 01 小さなアクションが世界を変える!



著者：駒崎 弘樹  
定価：1,470円

東京の下町で「病児保育サービス」を始動し、「共済モデル」という画期的な手法によって高い評価を受けている社会起業家のリアルストーリーです。「自らの街を変える。それが世の中を変えることに繋がっていったのだ。だとしたら、(社会を変える)ことは絵空事ではないはずだ。一人ひとりが、自らの街を変えるために、アクションを起こせばいいだけなのだ。」その小さなアクションが、大きな変化のきっかけになることを気づかせてくれる一冊です。

place 01 自由に遊びきれる空間 ~遊び方をみんなで考えよう~



「大門公園(北側)」  
住所：岡崎市大門3丁目23

大門公園が整備され、水遊び場やキャンプ場、多目的広場ができ、子どもから大人までたくさんの人々に利用されています。今回紹介するのは、その北側の堤防沿いに最近整備が完了したスポット。ゆとりある駐車場では、中学生や若者がスケボーの練習をし、ただ広い広場では、バドミントンやボール遊び、鬼ごっこなど様々な遊びが繰り広げられています。また、川辺に下りることでも、水切り、流木拾い、砂遊びが可能です。とにかく、空が広い!空を見上げることがはるばるありませんが、ここでは空と地が近づいているからそんなことは不要です。道具はない、乗り物もない、でも、無限に広がる地と空がある。覆輪してみよう。裸足で遊んでみよう。ボールを思いっきり高く蹴り上げてみよう!

book 02 地域で循環するココロとキモチの対価「地域通貨」



著者：村山和彦、塚田幸三  
定価：1,500円

「地域通貨」って知ってますか?何をいまさら感がありますが、久々にこの冊子を読んでみて、今の岡崎には、こうした新しい風が必要であると痛感しました。市民活動やボランティア活動、生涯学習などで貯まったポイントが、もし隣近所の商店で使えたら?市民活動が盛り上がりは盛り上がるほど商店街に活気が戻ってくる、そんな仕組みが地域通貨です。その先駆的な役割を果たしている千葉県の地域通貨「ピーナッツ」。誕生から市民に根付くまでの詳細をわかりやすく紹介した冊子。地域通貨に興味のある方、必読です!

book 03 学校は閉ざされても、想いは閉ざされない。



「学校はカラッポにならない」  
作者：田島征三  
定価：700円

2005年3月、新潟県十日町市にある真田小学校が過疎化のため閉校になり、今は絵本美術館として新たなスタートを切りました。この絵本は、真田小学校、最後の在校生3人の学校への思いが、作家・田島さんの手によって描写されたもの。卒業式終了後、校庭で育てていた野菜のことが心配になって学校へ足を運んだ子どもたちが、この場所で育まれた思い出を食べているオバケ「トバレット」に出会うという物語です。閉校というさびしい出来事から、子どもたちの学校に対する温かい気持ちに手を取るように伝わってくる、とても心温まるお話。山間部の過疎化や市町村合併による学校閉校は岡崎市も他人事ではありません。自分の卒業した学校が閉校になったら、こんな気持ちで次を迎えたいと思わせてくれる一冊です。

group 01 志ある「お金」と「時間」を活かす『融資』

「コミュニティ・ユース・バンク momo」

所在地：名古屋市中区富田町9-16 有信ビル2F  
URL：http://www.momobank.net/



何か事業を興すとき、会社であれ、NPOであれ、資金調達の壁に直面します。一般的に、NPOの資金調達の方法としては、事業収入(受益者からの直接対価)、助成金・補助金、会費収入、委託金などが挙げられ、企業の場合に比べ、バリエーションが多いのが特徴ですが、さらに「融資」という形で、NPO活動を支援しているのが、コミュニティ・ユース・バンクmomoです。「お金の地産地消」の実現に向けて、出資者と融資先の顔の見える関係をつくり、融資を通じて双方の資源を活かし合いながら、共に育ち合うことを目指して、資金循環にとどまらない「役割循環」を促すアクションを起しています。どうぞ、お金を借りるなら、自分の活動を応援してくれる人から借りたい。どんな人が貸してくれているのか、顔の見える関係でありたい。そして、いつか恩返ししたい。そんな「志金」が社会を変えていく。なお、1月15日にりぶらにて、momoが行なう融資体験ができます。詳細は、イベントカレンダー参照。

ID\_000049

Theme

## テーマ：「時期尚早な人」

1999年に「岡崎でも、市民参加のまちづくり(市民と行政が協議をしながら、まちづくりを進める方法)が出来たらいいなあ」と考えて、奈良井公園の市民参加ワークショップの仕掛けを、三矢・天野(いずれも、現りたの職員)が始めたことは、あの頃の岡崎では「市民参加ワークショップは時期尚早」と、市民職員の方々にはご苦労をかけたものだ。

その後2004年に、岡崎市南部地域交流センター・よりなんと岡崎市図書館交流プラザ(愛称Libra)の市民参加ワークショップが、岡崎市初の試みとして開始された。市民が自分達の方々の公園作りや施設作りに参加できる場を開いていくことが、我々の願いであったわけだが、その思いは少しずつ(岡崎市内においても)一般化してきた感がある。

2005年には筆者・三矢が、りた(当時は市民活動支援協議会)の職員となり、市の職員の方々の間で「岡崎では(ボランティア、市民活動という言葉ならまだしも)NPOは時期尚早」と苦勞したこともあった。これも2009年に、りぶら市民活動センター(りたが運営している)が主催して「NPOって何?」という講座を開催したところ、確か30名近くの市民の方々に集まりいただき、これからNPO法人を立ち上げようとする方々を初めとして、活気ある場となったことが思い出される。

他にも、りたが市民活動を包括的に支援していく上では、社会福祉協議会が扱っているボランティア活動支援とも連動すべきと考えたものの、りた自身に実績が無かったこともあり、当時は中々話が前に進まなかった。しかし2010年になって、市民協働推進課、りぶら市民活動総合支援センター、社会福祉協議会ボランティアセンター、りたの4者で連携をとるべく「市民活動支援拠点施設連携会議」が立ち上がった(具体的成果は2011年に発揮される予定)。

以上の事例で何が言いたいのかという、社会の変化は、立場によって異なるリズムで

訪れるということだ。これは、三矢の名古屋工業大学時代の恩師・高橋博久先生の言葉「市民活動は、行政の活動に先んじる」という命題に集約される。

社会の変化をいち早く受信し、その新しい社会ニーズや課題に対応するのは、市民(NPO)活動だ、という意味だ。行政が動ける領域は、公平平等であることはもちろんのこと、議会という市民の多数が支持する仕組みが許容した分野に限定される。

従って、時代の最先端、社会の変化の最前線に於いて、行政が率先して取り組むのは、その仕組み上、無理である。社会的には必要とされつつあるが、行政が乗り出すには時期尚早な領域を我々NPOは指摘し、提唱することが出来る。これを専門用語で「NPOの政策提言能力」と呼ぶ。

一方で、三矢自身が20代を関東で過ごしていたこと、あわせてNPO活動にも関わっていた経験から確信していることとして「欧米の変化→東京の変化→名古屋の変化→岡崎の変化」という文化の伝播にタイムラグがある。この10年で劇的に情報社会化が進んでいる。この変化を外れた社会の変化というのは見たことがないの不思議なものだ。

例えば、イギリス政府の行政改革(後の官民協働)が断行されたのは1980年代に顕著だし、東京近辺では1980年代後半辺りから「市民と行政のパートナーシップ」や「中間支援組織」に関する議論が、先駆的な自治体の関係者や市民の間で活発になった。1990年代初頭、名古屋を情報発信地として、今の愛知県内の中間支援を担っている団体の設立が相次いだ時期だ。

これらの状況が成熟したからこそ、1999年にNPO法が成立した(阪神淡路大震災でのボランティアの存在が、法案成立に向けて追い風になったのは事実だが、既に変化は始まっていたとみるのが賢明だ)。そして、2009年に岡崎でNPOに関するセミナーを行う



伝説?の  
コラムニストが語る!  
三矢勝司の  
だとすると

■コラムニスト:  
三矢勝司 | KATSUSHI MITSUYA  
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長

までに社会は変わってきた。

だとすると、2011年の初めに言っておきたいことが二つある。一つは「2015年くらいには、岡崎でもコミュニティビジネスの議論が起きるはず」であり、もう一つは「りたから、日本の中でも先駆的なまちづくりを始めてみたい」である。グローバル経済下で、日本に仕事がない、希望が無い、地方には活力も無い、世界的企業の皆様に頑張っていたたくのはもちろんとしても、それとは別に、地域社会に仕事がある、希望がある、活力がある状況をつくる必要がある。そのキーワードとして「コミュニティビジネス(※1)」がある。それが、時期尚早だと分かっている、問題提起はしておきたい。

そして逆に、岡崎のような地方都市だからこそ出来ることも沢山あると思ってる(地域のつながり、歴史や文化の存在等は強力なまちづくり資源になりうる)。「欧米、東京、名古屋の順番を待たずとも、岡崎から始めちゃえばいいじゃん」の精神で、2011年を始めてみたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願ひします。

※1: 地域住民が、お互いに出し合える資金、労力、知恵等を出し合って、地域の困ったことを解決し、あったらいいなを形にする。ここで一定の資金調達や人材のマネジメントをするため「ビジネス」という言葉がついている。千葉県では2000年に、コミュニティビジネスの議論が高まっていた。

Litaracy

## EVENT SCHEDULE

1 January	2 February
<p>5 水 19 水 21 金 28 金</p> <p>親子でふれあい・交流 <b>やはぎかん ふれあい広場</b> 幼児とお母さんのための読み聞かせです。この機会に、たくさんのお子さん、お母さんと触れ合ってみませんか? ■無料(参加自由) ■やはぎかん ■西部地域交流センター・やはぎかん TEL:0564-33-3665</p> <p>11:00 11:30</p>	<p>5 土 9:30 13:00</p> <p>みんなで楽しく料理づくり <b>よりなん 食のふれあいクッキング③</b> 手打ちうどんを講師の方に教わりながら楽しく交流します。 ■1,200円 ■よりなん 調理室 ■15名(先着順) お一人様2名分まで受付可能。1/8~受付開始しますので、参加費持参の上直接窓口でご予約ください(お一人様①~④-講座の受講に限らせていただきます) ■南部地域交流センター・よりなん TEL:0564-59-3600</p>
<p>15 土 9:45 12:30 13:45 16:30</p> <p>NPOの資金調達力をアップ! <b>NPOが多様な収入源を確保するために</b> NPOが多様な収入源を確保するために、継続的な支援を獲得するためのコミュニケーション向上をめざして2つの体験プログラムを実施します。 【第1部】ダイレクトダイアログ体験「会費・寄付収入」編 【第2部】パナール融資審査委員会「融資・事業収入」編 ■各部1,000円 ■りぶら会議室301 ■20名(先着順) ※前々日までにmailでご予約ください ■りぶら市民活動センター TEL:0546-23-3114</p>	<p>6 日 10:30 16:15</p> <p>ボランティアに来て欲しいけど... <b>(4回連続講座)すぐに役立つ! ボランティアマネジメンのコツ!!②~④</b> 1/23から開催の4回連続実践講座、続編です。ボランティアマネジメン 活動プログラムの作成から募集、選考、フォローまでを実践的に学びます。最終日は実習のフォローアップとして問題点の洗い出し、解決策の提案をしていただきます。 ■無料 ■りぶら 会議室201(最終日のみ302) ■20名(先着順) ※全4回参加可能な方に限ります ■NPO法人 ボラみより情報局 TEL:052-799-5356</p>
<p>15 土 9:30 13:00</p> <p>みんなで楽しく料理づくり <b>よりなん 食のふれあいクッキング②</b> 手作りキムチを講師の方に教わりながら楽しく交流します。 ■1,200円 ■よりなん 調理室 ■20名(先着順) お一人様2名分まで受付可能。1/21~受付開始しますので、参加費持参の上直接窓口でご予約ください(お一人様①~④-講座の受講に限らせていただきます) ■南部地域交流センター・よりなん TEL:0564-59-3600</p>	<p>20 土 10:00 13:00 (予定)</p> <p>よりなんが桃の節句で華やかに! <b>よりなん ひなまつり(仮称)</b> 吊るし雛・折り紙づくりに体験ができます。雛飾り展示も同時開催(2/12~3/3) ■無料(予定) ■よりなん ■体験は数に限りあり(先着順) ■南部地域交流センター・よりなん TEL:0564-59-3600</p>
<p>23 日 10:30 16:15</p> <p>ボランティアに来て欲しいけど... <b>(4回連続講座)すぐに役立つ! ボランティアマネジメンのコツ!!①</b> ボランティアに来て欲しくても集め方がわからない、受け入れ方がわからない、関わり方がわからない。そんな方(団体)におススメの、豪華講師陣をお迎えした4回連続実践講座です。 ■無料 ■りぶら 会議室101 ■20名(先着順) ※全4回参加可能な方に限ります ■NPO法人 ボラみより情報局 TEL:052-799-5356</p>	<p>24 木 10:00 13:00</p> <p>みんなで楽しく料理づくり <b>やはぎかん 楽しい料理教室</b> 料理を覚えながら楽しく交流しませんか? ■700円 ■やはぎかん 調理室 ■17名(定員以上の場合は抽選 ※当月10日までに要予約) ■西部地域交流センター・やはぎかん TEL:0564-33-3665</p>
<p>27 木 10:00 13:00</p> <p>みんなで楽しく料理づくり <b>やはぎかん 楽しい料理教室</b> 料理を覚えながら楽しく交流しませんか? ■700円 ■やはぎかん 調理室 ■17名(定員以上の場合は抽選 ※当月10日までに要予約) ■西部地域交流センター・やはぎかん TEL:0564-33-3665</p>	<p>26 土 9:00 12:30 (予定)</p> <p>藤川わくわくウォークラリー <b>藤川 いいところ探検隊</b> 藤川のいいところを再発見するワークショップの第三弾。今までのワークショップで発掘してきたいところをめぐるウォークラリーを開催。 ■無料(予定) ■藤川駅前集合(予定) ■150名程度 ※詳細はお問い合わせください ■岡崎市都市計画課 TEL:0564-23-6261</p>

まちのミカタ

Litaracy

2011.1 vol.49

発行・編集

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0050 岡崎市東生通4丁目7番1号地

岡崎市図書館交流プラザ2階市民活動センター内

TEL (0564) 23-2888 / FAX (0564) 23-2898 http://www.okazaki-lita.com/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター

会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は下記までご連絡ください

配布協力

Ragslow / ちかちか / Fit / whiteroom / 森の花畑 / FMおきざき / ちくんの歌葉子屋 / FURA gallery / angleshare



# 公的：「地域と共に育つ拠点づくり」 地域交流センター指定管理者プロポーザルを終えて

皆さんは「指定管理者制度」という言葉をご存知だろうか。制度については後述するが、今年の7月から9月にかけて、来年度以降の岡崎市地域交流センター指定管理者を選定するプロポーザル（提案形式）の公募があり、選定委員会による審査、市議会による議決を経て、私たちには、晴れて4月以降も地域交流センターの指定管理を任されることとなった。指定管理者制度の意義、またその中で管理者に指定されたら、今後5年間、目指す地域交流センター像とは？

## 指定管理者制度とは？

指定管理者制度（しじやかんりしゃせいど）とは、03年9月に施行された制度で、それまで行政などに限られていた公的施設の管理・運営を、多様化する市民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなどに代行させることができる（委託ではなく行政処分）制度である。選定のプロセスとしては、行政が定める条例に従ってプロポーザル（提案）方式や総合評価方式で一般公募し、候補団体の選定を経て、最終的に施設を所有する自治体の議会で議決を得た団体に対し、正式に管理運営が委任されることになる。指定管理者とは、この制度に則り、期間を定めて管理運営を行政に委任された団体のことを指す。岡崎市も多くの施設に対し、この制度を導入しており、地域交流センター（北部地域交流センター・なごみん/南部地域交流センター・よりなん/西部地域交流センター・やなぎかん）もその一つである。そして、今年度はこの3館の今後5年間の管理者を選定する節目の年であり、プロポーザルを経て我々だったが、晴れて地域交流センターの指定管理者に任命されることになった。

## 指定管理者制度の問題点、意義

指定管理者制度導入の意図には、以下のような期待が導かれるだろう。まず第一に、民間の柔軟なノウハウを用いて多様な施設の運営を行なうことが可能となる。サービス向上による利用者の利便性の向上、施設の活性化ができる事。さらには施設を所有する行政のコスト削減などが期待できる事である。一見可能な制度のようにも見えるが、もちろん多くの問題もはらんでいる。



北部地域交流センター・なごみん



南部地域交流センター・よりなん



西部地域交流センター・やなぎかん

向けて地域の情報収集及び地域特性を活かした運営を常に心がけている。地域の情報収集においては、信頼関係作りから始まっている。「地元発意イベントへの後方支援」などを積極的に進めてきた。これまでも、具体的には「地元の商工発展会が主催するイベントの広報支援や、ボランティアの送り込み」、「地元の防災訓練との共同による防災イベントの実施」、「地元の伝統行事の集客支援を目的とした連携イベントの実施」などが、これらは引き続き実施していくが、こうした地道な活動の積み重ねにより信頼関係を築き上げてきたわけである。おそらく多くの方に経験があるだろうが、初対面や信頼関係のない相手に対しては警戒してしまうのが普通だろう。ましてやそんな相手にうかつに個人情報をお話ししたりはしないはずだ。地域も同じ事で、中に入っていくということはそれほど困難なことなのである。ましてや信頼を築き生じる情報を得ることは言うに及ばない。施設の管理とはいえず、やはり人と人との顔の見える関係なしには成り立たないのである。その甲斐もあって、今は「地域の会合に前向きな情報収集」を行っているまでの関係を築いている。センター長が、地元の総代会や商工発展会の会合に前向きな情報収集や意見交換をすることで地域との連携関係をスムーズにしてきた。

クを広げることにより、より多くの問題（ニーズ）の把握、さらにはそれを解決できる担い手（リソース）を把握することができるのだ。こうした問題解決の協働事例を積み重ねることで、誰にとっても住みやすい岡崎を、市民の手によってつくる。そして、「岡崎に住んでいて本当に良かった」という岡崎市民としての誇り（civic pride）を高める足かりとなるような、地域に愛されるセンター運営をたは目指していきたいと考えている。

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

この関係や情報をすべてのスタッフが共有できるよう、窓口業務においておとなし精神で利用者へ接することもある。情報の内部共有を怠らないことも徹底している。内部も外部も同じであり、人と人との関係が大事なのだ。また、収集した情報は関係網の回復などによって再び地域に周知している。それにより地域内での情報共有や地域への愛着醸成を目指す。こうした取り組みを通じて、（現在整備されている）「自分がかつて住んでいた地域（町内、学区）に、固有で豊かな地域活動・市民活動があること」を知ってもらい、気軽に地域活動に参加してもらう場づくり、関係づくりを進め、「この地域に住んでいて本当に良かった」と実感できる地域づくりを、各センターを拠点にして進める。そして、各センターが地域性を反映して個性豊かに事業展開をすることで、総体として「岡崎に住んでいて本当に良かった」という岡崎市民としての誇り（civic pride）を高め、地域への愛着を育むことのできる。また、支援先団体の現地調査等を通じてボランティアの募集や、市民活動団体・NPO概論、中間支援組織概論、会議ファシリテーション、広報スキルなど、市民活動を団体や中間支援における専門スキルを有したスタッフの育成を心がけている。

## 市民活動の支援、活性化

さらに、地域交流センターが市民活動の活性化を目的とした施設でもあるため、スタッフのスキルアップとして、新人スタッフ向けに市民活動支援者の基本的な知識、技術の習得をするカリキュラムが確立されているほか、2ヶ月に1回、他の交流センターの良いところを学びあうことを目的として、現場のスタッフ同士が意見交換するスタッフ交流会を設けることで、市民活動支援に関する情報や戦略を共有し、効果の最大化を図っている。また、支援先団体の現地調査等を通じてボランティアの募集や、市民活動団体・NPO概論、中間支援組織概論、会議ファシリテーション、広報スキルなど、市民活動を団体や中間支援における専門スキルを有したスタッフの育成を心がけている。

## ネットワークの拡大、そして地域の問題解決へ

先述の通り、りたは地域に密着した拠点づくりを目指す一方で、地域の問題解決に向けてさまざまなネットワークの拡大を図っている。まず第一に各センターに配した正職員を連携担当として配置し、中央機能との調整を行い、市内全域の連携を可能にしている。また、岡崎市の各部署との調整会議を実施し、市との協働促進にも密着している他、社会福祉協議会ボランティアセンターとの市民活

指定期間満了後も同じ団体が管理者として指定を受けられる保証は無く、管理者が変更された場合は、ほとんどの職員やサービスが替わってしまうことも考えられる。そのため、これまで蓄積された運営ノウハウ、または利用者との信頼関係をセッティングしてしまおう。また、指定期間が一般的に3年〜5年と短期間であるため、人材育成が難しいというデメリットもある。さらには長期的戦略が立てにくいことから、目先の経営節減のためにサービスが低下し、その結果、集客力の減少、収益の減少、という悪循環に陥る可能性もあるのだ。その意味では、我々だけが継続して指定管理者に選定されることが意義のあることであると感じると同時に、より一層のサービス向上と地域社会への貢献を求められることもあるわけ、一同身の引き締まる思いである。

## りたが管理運営を行うに当たっての経営方針

もちろん、今まで築き上げてきた実績、信頼関係はりたの強みだ。だからといって、今までと同じ事をしてはいけぬ。岡崎市が定める地域交流センターの基本計画を重視するのはもちろん、今後5年かけて「りたらしい」経営方針をもって、「地域と共に育つ拠点」、「拠点と共に育つ地域」を目指していく必要がある。市民の皆様に「自分がかつて住んでいた地域（町内、学区）に、固有で豊かな地域活動・市民活動があること」を知ってもらい、気軽に地域活動に参加してもらう場づくり、関係づくりを進め、「この地域に住んでいて本当に良かった」と実感できる地域づくりを、各センターを拠点にして進める。そして、各センターが地域性を反映して個性豊かに事業展開をすることで、総体として「岡崎に住んでいて本当に良かった」という岡崎市民としての誇り（civic pride）を高め、地域への愛着を育むことのできる。また、支援先団体の現地調査等を通じてボランティアの募集や、市民活動団体・NPO概論、中間支援組織概論、会議ファシリテーション、広報スキルなど、市民活動を団体や中間支援における専門スキルを有したスタッフの育成を心がけている。

## 方針実現に向けて地域の中へ

それを実現するためには岡崎市内の地域団体と緊密な連携をとることが必須になる。今後5年のために、地域とのつきり機能の強化として、センタースタッフが「地域コーディネーター」として活動できるよう、体制強化に

## 多分大のまちづくりのまちづくり

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

「指定管理者制度の導入による地域交流センターの運営」

## 「Why」を「How」

「Why」を「How」